

もむない (もみない) という言葉

御所市など奈良県南部や和歌山県でよく使われる方言に「もむない」があります。

「もみない」の訛りで「うまくない。味が良くない。まずい。もみない。」

(『デジタル大辞泉』より) とあり、**食べ物が”おいしくない”**ときに言われる言葉です。

この言葉の語源を調べてみると2つの説がありました。



物味 (もみ) ない

「もみ」とは「物味」ということで、『物の味がしない～味気ない、まずいこと』を意味するようになったというものです。

江戸時代 後期の小説『東海道中膝栗毛』の淀川の船下の場面で、商船が「**飯食らわんかい 酒飲まんかい**」と食べ物を売っている。それに対して乗客が「この汁は、**もむない かはり、ねからぬるふていかんわい**」
＝この汁はまずい上にひどくぬるくていかん

ここで「もむない」が使われていて、古くから広く近畿圏で使われていた言葉であると思われます。



毛瀾 (もみ) ない

- ・広辞苑で**毛瀾 (もみ)**とは「**アカガエル**の異称」とあります。
- ・吉野町南国栖(くず)にある**浄見原(きよみはら)神社**では、アカガエルなどを供える「国栖奏(くずそう)」という伝統行事があり、『日本書紀』にも登場しています。

この地では**カエルを食べる習慣**があり、昔は食用で**最高の珍味**として献上されたそうです。

上等で美味なことから、**美味しいものは「もみあるもの」と言い、「もみがない」とは美味くない**になったとのこと。

国栖(くず)では、今でも赤いカエルを「モミ」、ヤマアカガエルを「モミガエル」と呼ぶそうです。



もむない (もみない) という言葉にはかわいらしい響きがあり、「もむもむ」と

味わうように**咀嚼するよう**な語感も感じられます。

「まずい」「おいしくない」よりもマイルドで**愛嬌**あるこの方言を残していきたいものです。

